絆

題字：生徒会企画部長　桝田　愛佳

京都外大西高等学校
Kyoto Gaidai Nishi high school

学校広報

2025 年 9 月 1 日　発行

〒615-0074
京都市右京区山ノ内苗町 37

TEL 075-321-0712
FAX 075-322-7733

【編集・発行】
後藤　純子　谷口　小麦
安藤　茉音　飯田　愛香

2025 年度
第 5 号

第 35 回関西高校模擬国連大会

第 35 回関西高校模擬国連大会は、2025 年 6 月 18 日から 20 日にかけて開催され、10 校から約 200 名が参加しました。「世界的な難民危機」を議題に、参加者はブロック会議、ポスター発表、総会で議論を重ね、決議案を作成。難民支援 NPO や弁護士の講演も行われました。この大会は、生徒たちが英語力だけでなく、批判的思考力やコミュニケーション能力、そして地球市民としての意識を育む貴重な機会となりました。

3-ICA　香川 羽菜

私はこの模擬国連を通して大きく 2 つのことを深く学べたと思っています。

1 つ目は世界についてです。今回の議題は「難民」についてでしたが、これまでそれについてふれる機会が少なかったので、今世界のどこにどれくらいの難民がいて、どんな解決策があるのかなど、とても深く知ることができました。しかし、ただ知るだけではなく、それぞれの国が現在どのような問題を抱えているのかを踏まえて討論したので、さまざまな視点から難民について考えることができました。

2 つ目は模擬国連という本格的な英語での討議を通して、英語をこれまで以上に学べたということです。会議では私が普段なら使うことの少ない、専門的な英単語が多く使われました。初めは意味と単語がなかなか一致せず、つまずくことも多かったです。しかし、本番が近づくに従って、その難しい単語を使いながら友だちやネイティブの先生と話すことができて、自分の英語に自信を持てるようになりました。

今回の模擬国連に向けて半年以上前から準備してきて、世界に目を向けたり、英語を自分のものにしていったりと、本当によい経験となりました。この経験は将来にもきっと役立つと思うので、このことを忘れずにさらにいろいろな世界のことに興味を持ち、学んでいきたいです。

3-ICA　キャンベル 園真

初日、ブロックミーティングで顔合わせがありました。自己紹介もなく、緊張感漂う雰囲気の中、会議が行われました。プレゼンテーションが始まると、周りの顔つきが一気に変わりました。その時、志願して模擬国連に出ている人は真剣さが違うと感じました。そして、その人たちとの英語力にも差を感じました。日頃、学校で授業を受けていても理解できないということはそう多くはありませんが、彼らのプレゼンテーションを聞いている時、理解できていたことの方が少なかったと思います。意見を出し合うにしても、相手の意見を理解できていないと成り立ちません。そのため、私は聞いていることしかできませんでした。自分の単語力のなさに悔しさを感じたまま、初日は終わってしまいました。

2 日目、ポスタープレゼンテーションが行われました。初日と違って 2 日目は、積極的に質問ができていたと思います。それぞれの国の個性を感じられておもしろかったですし、いろんな人と話すことができて、楽しかったです。何より、それぞれの国の現状について知ることができ、クローズを書く上で役立ちました。

2 日目午後から 3 日目、インフォーマルディベートが行われました。ブロック 1、2、3 と話し合いましたが、どれも白熱したものとなりました。お互いの国の意見を尊重しながらクローズを絞るのに苦労しました。また、質疑応答、コーカシング、どれも時間制限内で目的を果たすのも難しかったです。このインフォーマルディベートやプレゼンテーションの時、初日と同様英語力に差を感じられました。

3 日間、他校の人と MUN を行って本当に刺激を受けたので、参加して良かったと思いました。結果としてブロック 2 のみ可決されませんでしたが、大切なものを得ることができたと思います。プレジデント、プレジデントアシスタント、ブロックリーダーが涙を流す姿が見受けられて、胸をうたれました。責任感をもって頑張ってくれたので、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に成功に終わって良かったです。

3-ICA　坂井 愛花

模擬国連という、IC コースの一大イベントが終わり、今は達成感を感じています。留学から帰ってきたときから本格的に準備を進め、無事に終えることができて幸せです。

模擬国連は、入学したときから IC コースの集大成として掲げられていて、1、2 年前までは何が会議で行われているのかわからない状態でした。しかし、ひとつひとつ自分たちで調べ学習し、情報共有し、授業でインフォーマルディベートができたときは喜びがありました。

6 月はまだ先のように感じていましたが、あっという間に前日を迎えていました。会議には、英語を専門とした学校やインターナショナルスクールの人たちがたくさん参加しており、その人たちの英語スキルに圧倒させられるばかりでした。その中でペアの人と英語を必死に聞き取り、協力して質問を投げかけ、前に出てスピーチをし、自分のできる最大限のことはできたと思っています。

今回、自分の英語スキルの足りなさを実感し、もっと英語を使えるようになりたいという向上心が高まりました。また、グローバル問題に目を向ける機会にもなり、この経験を今後も活かしていきたいです。

3-ICB　神田 陽菜乃

私は IC コースの集大成である MUN において、Bloc leader としてみんなが楽しめるようなミーティング総会になるよう全力で務めました。1、2 ヶ月前から準備を進めていた MUN ですが、私の力が至らない点、もう少しこうできたなと感じる点もありました。しかし、Bloc leader として力を発揮できている実感もありました。例えば、Bloc meeting で事前に伝えておけばこのような混乱はなかっただろうなと思うことがあったので、それを踏まえて午後の Bloc meeting では同じことが起こらないよう尽力した結果、スムーズかつよりよい議論になりました。3 日目の総会では、トピック 1 の時の問題が起こらないよう、あらかじめわかりやすいクローズの見方になるよう調整することができました。さらにトピック 1 の時に Slack のブロックグループチャットを活用し、議会をよりよくさらに効率よく進めることができました。それは一人ひとりが互いに、積極的に交渉した結果だと私は思っています。

Bloc leader として、私は「交渉の仕方」を学びました。社会では誰もが優しく理解を示して背中を押してくれるわけではないことを知り、その人にどう支援してもらうかの方法を学びました。私は初めはまだまだ未熟で、相手にどう伝えると相手も気持ちよく仕事ができるかをわかっていませんでした。しかし、Mr. Coates の助言の通りに相手が happy になれる方法で本番も行うと、最終的には意見が食い違っていた人とも友だちになることができました。これが MUN を通して得られたものです。

さらに衝撃を受けたことは、周りの人々のレベルの高さです。同じ学年、あるいは 1 つ下の学年であるのに、英語力、思考力が全く異なり、私ももっと頑張らないと、とその後のテスト勉強がとてもはかどりました。外の世界にはもっともっとすごい人たちがたくさんいて、甘えていたらだめだなと感じさせられました。

3-ICB　宮本 正道

35 回目という節目の関西高校模擬国連大会にインドネシア代表、そして議長補佐として、200 名を越える生徒と共に参加できたことは大変光栄で、有意義でした。他校の生徒と英語で議論し協力することができた経験によって、激動する世界情勢の中で生きる上でいかに対立から立ち直るか、ともに歩むかを考えさせられることになりました。ウクライナ侵攻や各地での紛争やクーデター、さらには先日のアメリカによるイラン核施設への攻撃など、平和が脅かされています。多様な理由により故郷を追われることになった人々が世界各地にいる中で、私たちに何ができるのかを考えることができました。

私は「緊急的人道支援」という Topic から難民問題について考えました。考えている中で、どこか一国だけで問題を解決することはできず、世界が一つになって考えることが必要不可欠であると何度も実感しました。ポスター製作から総会まで、インドネシアについて徹底的に調べ、文化面での学びも多くありました。

この 3 日間で、たくさんの「仲間」と協力できたことは自分にとって誇らしく、大切な思い出になりました。難民問題という世界が直面する平和的・人道的な危機を通じて、国際情勢の理解ができただけでなく、Bloc 会議・ポスターセッション・総会を通し、コミュニケーション力や交渉力などを伸ばすことができました。戦後 80 年を迎える中で、今回を機に平和について自分事として考えたいと思います。